



令和6年度 とわだ子ども議会

7月26日、市議会議場で「とわだ子ども議会」を開催しました。

この「子ども議会」は、子どもの意見に耳を傾け、まちづくりに生かす機会にするとともに、子どもたちが議会を模擬体験することで、議会や市役所の仕組みを学び、質問を通して市について考え、郷土を愛する心を育むことを目的に、平成25年度から行っています。

今回の子ども議会では、小学生10人と中学生6人が子ども議員として参加し、議長おごせまさとの生越正人さんと副議長つくだやまとの附田和士さんによる議事進行の下、市の総合計画に掲げる8つの基本目標をテーマに子ども議員が市政に対する質問を行いました。

子ども議員から、産業の発展、人との交流、市民の安全など、幅広い分野にわたる素晴らしい質問や提案がされるたび、傍聴席や議席からは大きな拍手が送られました。

▲北館康宏副市長、丸井英子教育長が答弁しました

▲緊張しながらも、堂々とした態度で質問・提案に臨みました



▲子ども議会終了後、北館副市長、丸井教育長と当選証書を手記念撮影

質問や発表を振り返る

8月3日に、本年度の子ども議会のまとめとして、レポート作成などを行う「振り返り活動」が行われました。

今回の経験によって学びを深めた子ども議員の取り組みをぜひご覧ください。

市ブログ「駒の里から」▶



基本目標1 市内外からより多くの人々や消費を呼び込めるまち（産業振興）



① 佐々木 亜葵 さん（ちとせ小6年） ② 苦米地 由夢 さん（東中3年）

質問 観光で有名な市にするために、市内各地をまわるスタンプラリーを実施してはどうか。

答弁 スタンプラリーは全国各地で行われている人気の企画で市のPRにつながる。県内のスポットを巡るラリーや東北6県の道の駅を巡るラリーに、市の施設も参加している。これらの事例を研究し、外国人への効果的な発信についても検討したい。

基本目標2 地域全体で子育て・子育てをしっかりと支えるまち（子育て・教育）



③ 目時 万愛 さん（沢田小6年） ④ 野村 清蘭 さん（東中3年）

質問 小学校の校外学習で、もっと地元の美術館などの名所や農作物を育てる畑などの見学を増やしてはどうか。

答弁 市では「とわだ未来プロジェクト」キャリア教育事業で各校を支援している。中学校では職場体験や農業体験を行う学校もある。校外学習や地域とのふれあいを通して市の良さを見つけ、働くことの大切さを学んでほしい。

基本目標5 地域で助け合い、災害に強く犯罪のない、安全・安心なまち（安全・安心）



⑨ 中野渡 結愛 さん（ちとせ小6年） ⑩ 畑山 結香 さん（三本木中1年）

質問 防災訓練に参加する市民を増やすために、ポスターや手紙にして知らせてはどうか。

答弁 防災訓練を実施する際には消防や警察、小・中学校、町内会などに案内を送り、多くの方々に参加いただいている。今後も防災マップの配布や広報活動を通じて防災に関する情報をお知らせし、災害に強い市になるために取り組みを進めたい。

基本目標6 ゆとりと潤いあふれる暮らしを実感できるまち（環境）



⑪ 議長 生越 正人 さん（三本木小6年） ⑫ 村井 利彩 さん（東小6年）

質問 子どもからお年寄りまで分かりやすいように、公園の遊具に使用方法を説明する看板を設置してはどうか。

答弁 公園の遊具は自由な発想で遊んでもらうことが基本的な考えであるため、看板は設置していない。しかし、安全に遊んでもらうことが一番大切であるため、遊具にはステッカーで「使い方の注意」と「対象年齢」を表示している。

基本目標3 すべての市民が健やかに暮らせるまち（健康・福祉）



⑤ 工藤 凜子 さん（西小6年） ⑥ 川添 葵生 さん（ちとせ小6年）

質問 高齢者とのコミュニケーションの場を月1回、市民に高齢者の大切さを教える場を年3回つくってはどうか。

答弁 既に行っている高齢者同士の活動や、コミュニティセンターでのイベントの場を昔の知恵を聞くことや高齢者について学ぶ機会としたい。高齢者の手助けができるよう、認知症高齢者等徘徊対応模擬訓練を今後も継続していく。

質問 高齢者ができる活動を増やすために、チラシなどを配り老人ホームで働く人を増やしてはどうか。

答弁 介護の現場で働く人を増やすことは大切であり、市では、介護に関する国の対策や、介護の勉強ができる研修などの情報発信に努めている。働く人を増やす方法については、事業所やハローワークなどと相談しながら考えたい。

基本目標4 たれもが楽しく学び、豊かな心と文化が息づくまち（生涯学習・文化・スポーツ）



⑦ 三浦 采弥 さん（西小6年） ⑧ 副議長 附田 和士 さん（藤坂小6年）

質問 流鏝馬を新しい伝統文化として未来につなぐために、もっとイベントを開催し、期間も延ばしてはどうか。

答弁 市では、流鏝馬を重要な観光資源の一つと捉え、大会の運営費用を支援している。今年の「世界流鏝馬選手権」はこれまでの2日間から1週間期間を延ばす予定で、世界に目を向けた取り組みが進められている。今後も支援を続けたい。

質問 移動手段がない子どものために、スポーツをする場に行くことができるようにバス送迎をしてはどうか。

答弁 市内には多くのスポーツ団体があり、さまざまな地域からメンバーが集まり活動している。市内各地へ思い思いの時刻に合わせて送迎することは難しいと考えるが、今後も市民がスポーツを楽しめる環境づくりに取り組みたい。

基本目標7 快適な暮らしや活発な経済活動を支える都市基盤が整ったまち（都市基盤）



⑬ 小笠原 茉莉花 さん（東中3年） ⑭ 浜尾 美咲 さん（県立三本木高校附属中1年）

質問 誰もが安全・安心に過ごせるまちにするために、街灯を増やしてはどうか。

答弁 街灯は歩行者の安全確保だけでなく、周囲を明るくし犯罪防止にも役立つことから、市では設置基準を設け、町内会や学校などからの要望に基づいて毎年20カ所程度に防犯灯を設置している。今後も誰もが安全・安心に過ごせるまちづくりに努めたい。

質問 通学手段に困る人を減らすため、悪天候の日に学校に止まるバスを運行してはどうか。

答弁 市立小・中学校の場合、学校の統廃合により遠距離通学になる児童・生徒へ定期券購入の補助や、スクールバスの運行をしている。悪天候の日のバス運行を検討している予定はないが、引き続き、みんなが気持ちよく学べる環境づくりに努めたい。

基本目標8 地域経済社会の持続的な発展を支える強固な経営基盤が確立したまち（自治体経営）



⑮ 小笠原 実玲 さん（三本木小6年） ⑯ 四戸 柚妃 さん（東中3年）

質問 交流のある明るい市にするために、大人同士で話し合える機会を設けてはどうか。

答弁 市の施設ではさまざまな団体が活動し、市民の交流の場となっている。また、大人同士がおしゃべりする会や、悩みごとを相談できるサロンの日を定期的に開催している団体もある。このような活動を支援し、交流のある明るい市を実現していきたい。

質問 性別による職業への思い込みをなくすために、男性看護師や女性パイロットなどによる講演会を開催してはどうか。

答弁 市では、平成13年から男女共同参画に関する取り組みを進めている。男女の割合が大きく偏った職業に就いている人による講演会は、格差をなくし、性別を超えて働くことにつながるため、講演会などのテーマの一つとして検討したい。